

図書館

と社会融合

社会に開かれた情報資源



図書館は、各種のメディアや情報資料を収集・保管し、広く社会に提供するための機関である。この考え方によれば、図書館は社会のあらゆる情報を資料として扱うべきであるが、図書以外の媒体・手段による情報の提供が遅れている。そこで、本シンポジウムでは図書以外の資料の収集や利活用を目を向け、社会に開かれた情報資源の拠点という図書館の役割を再検討する。また、持続可能な開発目標(SDGs)や市民科学など図書館を通じた社会課題の解決という視点も含め、図書館と情報化・多様化した現代社会の融合を情報提供という観点から議論していく。

Session1 (オンライン) * 図書館とボードゲーム 12/4/土 10-12時



司会/松岡梨沙氏
(ウニゲームス)



報告/日向良和氏
(都留文科大学)



報告/石田喜美氏
(横浜国立大学)



討論/高倉暁大氏
(熊本県立大学図書館)

- 形態：ハイブリッドまたはオンライン
- お申し込みURL
<https://forms.gle/jvKoAPwxtmVn382e8>
- お問い合わせ (大賀哲/九州大学准教授)
toga@law.kyushu-u.ac.jp



Session2 (オンライン) * 図書館とSDGs 12/6/月 11-13時



司会/北原秀治氏
(東京女子医科大学)



報告/細田満和子氏
(IAFA)



報告/八代江津子氏
(IAFA)



報告/広本ケンビン氏
(IAFA)



討論/大賀哲氏
(九州大学)

Session3 (ハイブリッド) * 図書館とディベート 12/6/月 15-17時



司会/上土井宏太氏
(九州大学附属図書館)



報告/久保健治氏
(ヒストリーデザイン)



報告/瀧本未知湖氏
(福岡県立香住丘高校)



討論/加藤彰氏
(九州大学)



討論/漆さき氏
(大阪経済大学)



討論/前田稔氏
(東京学芸大学)

Session4 (ハイブリッド) * 図書館と市民科学 12/7/火 10-12時



司会/渡邊由紀子氏
(九州大学附属図書館)



報告/岸村顕広氏
(九州大学大学院工学研究院)



報告/岡本真氏
(アカデミックリソースガイド(株))



討論/春日匠氏
(I-出科学・政策と社会研究室)



討論/トモコ・ステイヤー氏
(ジョージタウン大学)

セッション1

● 図書館とボードゲーム

12月4日(土)10時-12時 (オンライン)

近年では、図書館を人々が集まる拠点とするために図書館にボードゲームを置く動きがある。ボードゲームは様々な年齢層を超えて交流を深められるツールとして注目されている。ボードゲームを通じて、学校のカリキュラムの中では実践しづらい主体的な活動を行うことも可能であり、それは多様な資料や知見への興味を喚起するだけでなく、利用者の選択肢を増やすことにもつながる。本セッションでは、図書館におけるボードゲームの意義と効用を考えていきたい。

- 司会：松岡梨沙氏(ユニゲームス)
- 報告：日向良和氏(都留文科大学)
「国内外の図書館におけるゲーム利用の全体像」
- 報告：石田喜美氏(横浜国立大学)
「ゲームで社会にふれる。ゲームで社会を考える。」
- 討論：高倉暁大氏(熊本県立大学図書館)



セッション2

● 図書館とSDGs

12月6日(月)11時-13時 (オンライン)

Inclusive Action for All (IAFA)は「国内外の満たされない必要性(unmet needs)のある人々のより良い生活(社会的、文化的、健康的)実現を目指す団体」である。「学びを求めている世界の子どもたちに、大切に読んできた英語の絵本・児童書を送る活動」が前身であり、途上国や難民キャンプなどに本を送る活動を行ってきた。このセッションでは、IAFAの「スマイルブックプロジェクト」と「絵本でつながるプロジェクト」を事例として、図書館と「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を再検討していきたい。

- 司会：北原秀治氏(東京女子医科大学)
- 報告：細田満和子氏・八代江津子氏・広本ケビン氏(IAFA)
「ソナダーと共生社会—スマイルブックプロジェクトからつながる世界」
- 討論：大賀哲氏(九州大学)

セッション3

● 図書館とディベート

12月6日(月)15時-17時 (ハイブリッド)

2018年に告示され、2022年から施行される学習指導要領(高等学校・英語)ではディベート・ディスカッションが必修科目となっている。ディベートは、ある特定のテーマについて、肯定側と否定側に分かれて第三者を説得する競技である。ディベートの形式によって異なるが、ディベートでは題材となるテーマについて準備や調査をする必要があるため、図書館はディベート活動にとって不可欠なリソースであるといえる。このセッションでは、ディベート活動を通じて社会教育活動の場としての図書館の意義と課題を考えていきたい。

- 司会：上土井宏太氏(九州大学附属図書館)
- 報告：久保健治氏(ヒストリーデザイン)
「「偶然」はデザインできるのか—ディベート活動における図書館の役割変遷」
- 報告：瀧本未知湖氏(福岡県立香住丘高校)
「高校ディベートと図書館」
- 討論：加藤彰氏(九州大学)
- 討論：漆さき氏(大阪経済大学)
- 討論：前田稔氏(東京学芸大学)

セッション4

● 図書館と市民科学

12月7日(火)10時-12時 (ハイブリッド)

市民科学(Citizen Science)とは、一般市民によって行われる研究活動であり、職業研究者や研究機関との協調や連携の下で行われることが多い。近年、社会的に市民科学は高まりを見せており、本学の社会連携推進室でも市民科学に関連した取り組みが行われている。社会的に市民科学に本格的に取り組もうとした場合、図書館は研究リソースにアクセスするための拠点として重要な役割を担うことになる。このセッションでは、市民科学の重要性とそこにおける図書館の役割を再検討していきたい。

- 司会：渡邊由紀子氏(九州大学附属図書館)
- 報告：岸村顕広氏(九州大学大学院工学研究院)
「研究活動の担い手拡大に向けたシチズンサイエンスの活用と図書館への期待」
- 報告：岡本真氏(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)
「市民科学に資する図書館の拡張—公共図書館と大学図書館の連動を中心に」
- 討論：春日匠氏(一般社団法人 科学・政策と社会研究室)
- 討論：トモコ・スティーン氏(ジョージタウン大学)

